

「東日本大震災」復興支援 第46回全国ミニバスケットボール大会出場報告

上宇部ミニバスケットボールスポーツ少年団
コーチ 網屋 薫

第46回全国ミニバスケットボール大会に山口県代表として出場しましたので、結果及び感じたことを報告します。

3月27日宇部空港より選手・コーチ・付き添いの保護者全員元気一杯で出発しました。

3月28日開会式に参加。全国からのチームが一同に集まり早くも代々木第一体育館は熱気で一杯。
我がチーム入場行進では今ひとつ足並みが揃わず、一度も練習しなかったことを少し後悔。

一試合目対高知県戦 スタートからエンジン全開でしたが力みからか最初はシュート決まりませんでした。ほどなく本来の姿に戻り54対28で勝利、選手全員を出場させることができました。

3月29日二試合目対熊本県戦 その前に熊本対高知戦を観戦し作戦を立てる。熊本は今大会2番目の高身長177cmの選手を中心とし熊本県内では無敗の強豪チームです。対戦前に、選手へひとつひとつ丁寧に相手チームの特徴を話して対応を説明するも、最後は今まで通り上宇部らしいバスケットをするということを徹底しました。

試合が始まるとしつこいディフェンスから素早いオフェンスと、攻防の切り替えの速さにこだわったこちらのペースとなり前半12点差リードで終了。後半は何とかこの差をキープし10点差で逃げ切り予選リーグを通過しました。

この試合のディフェンスは今まで中では、最高のできで、177cmの相手のエースにリング下でのボールを渡さないことができたことが一番の勝因でした。まさに、上宇部らしいバスケットができました。

3月30日準決勝対宮城県戦 この大会の目標である優勝するには是非とも勝ちたい試合でした。しかし、1Q前半の入りはこちらのペースでしたが、こちらのシュートがことごとく入りません。次第に相手のペースとなり点差を開けられる展開となりました。何とか、ペースを変えようという指示しましたがうまくいかず、17点差つけられての敗戦でした。少し悔いの残る試合でしたが、選手はもてる力を全て出し切ったと思います。3年前と同様ブロック3位という結果でした。

今回参加して感じたことは、選手・コーチ・保護者・審判・役員と全ての人の“熱気”でした。

同じ日程で開催されたジュニアオールスターも大盛況だったとのこと。昨年末に初めてウィンターカップを観戦しましたが大いに盛り上がっていました。開会式挨拶でミニ連会長が日本協会のごたごたをしっかりと欲しいと言われていましたが、現場の盛り上がりを目の前に見てのお気持ちはよくわかりました。

底辺の拡大はどのようにしたらとよく話が出ますが、ミニバスそのものが存在することが拡大の一步だと思っています。指導者としては、もっともっと謙虚になり、もう少しの間子供達と一緒に感動を共有したいと思っています。

応援をいただいた全ての皆様に大変感謝しています。ありがとうございました。



「東日本大震災復興支援」

第46回全国ミニバスケットボール大会に出場して

上宇部ミニバス 大迫亮太郎

僕たち上宇部ミニバスは、目標であった全国大会に出場したくさんの事を経験することができました。

対戦成績は2勝一敗、Dブロック第三位でした。

一日目、みんなはすごく落ち着いて行進していました。

1回戦目 三里(高知)は平均身長が高く#5を中心に点を入れていくチームでした。最初は大きな会場というのもあり、前半リードはしていましたが自分たちのプレーができませんでした。後半からは徐々に緊張が取れ、自分たちの走るバスケットができ、53対28で三里に勝つことができました。

2回戦目 城西(熊本)は身長が高く、とても走るチームでした。前半はリードしていましたが、後半相手に点をとられ苦しい展開もありましたが、ディフェンスで必死にねばり、38対28で勝ち、何とか決勝トーナメントに進出できました。

決勝トーナメント 長町南ミニバス(宮城)は#4を中心によくまとまっ

たチームでした。前半は17対22となんとかくراいついていきましたが、後半は相手のディフェンスに圧倒され、足も動かず24対41で負けてしまいました。くやしい思いをしましたが、これからに向け色々な経験ができました。

これも指導者の方やご支援してくださった方々のおかげです。

本当にありがとうございました。

